四万十町

町内ぶら～り散策

平（ひら）串（ぐし）

高知自動車道四万十町中央インター付近が平串である。今でこそ、車社会における四万十町の玄関口としてのにぎわいであるが、昭和50年代までは、国道沿いにはさほど人家もなく、静かな集落であった。

国道56号線が拡張された頃、その静かな集落にJAの集出荷場が建てられた。これが今日のにぎわいの始まりとも言える。現在のコンビニエンスストアや釣具店のある場所である。その後、JAは現在の場所に移転するのであるが、跡地には、大手電機メーカーの下請け会社の工場が入る。当時の国内は、凄まじい勢いの家庭用ビデオ普及時代。この工場では、ビデオレコーダーに使う基盤の製作が行われていた。当時を知る方のお話では、作っても作っても足りない状態だったという。しかし、ビデオの時代は去り、それに伴い工場も撤退した。地区の衰退が心配されたが、地元に開業したレストランの奮闘や、しばらくしてできた道の駅「あぐり窪川」が、地区の衰退を食い止めた。そして、高知道延伸である。

そもそも、平串村は「川井村」といった。戦国時代の記録には「河井村」という記載も見られる。さらに、小地名として「平越タ」という文字も見え、これが「平串」となったのではないかと思われる。記録の中で正式に「平串村」と出てくるのは、江戸時代初期・元禄になってからである。ただし、ここでも「古者川井村（以前は川井村といったという意味）」との注意書きがある。

平串には「善福寺」というお寺があった。弘法大師が神仏習合を唱えて、五社さんの境内に創建した「福円満寺」の分寺の一つである。江戸時代にはすでに廃寺（退転）しているのだが、現在も跡地にお堂が残っている。

また、インターから国道56号を仁井田方面に向かって200mほど行った道沿いに「紅岩（べにいわ）さま」という小さな祠がある。戦国期には、この地域でも小さな戦が絶えなかったため、斬られて命を落とす者も少なくなく、それらの者を弔うために置かれた祠であるという。今も地区の人々から「べにやさま」と呼ばれて親しまれている。

平串には現在99世帯、186人が暮らしている。

「紅岩さま」は、うっかり見逃してしまいそうなところにある

町のうごき

（7月31日）	人口	前月比
男	8,195	−16
女	9,125	−23
計	17,320	−39
世帯数	8,556	−14

	出生	死亡	転入	転出
男	4	14	8	14
女	4	15	9	21
計	8	29	17	35

（7月中の届出）

窪川地域 12,245人　大正地域 2,428人　十和地域 2,647人

四万十川の水質状況

	適正値(mg/l)	8月8日
リン酸	≦ 1.0	測定範囲以下
硝　酸	≦ 0.5	0.237
アンモニウム	≦ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≦ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≦10.0	測定範囲以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信　2018.9月号　Vol.150（毎月10日発行）
●発行／四万十町企画課　●印刷／窪川印刷
〒786-8501　高知県高岡郡四万十町琴平町16-17　☎（0880）22-3124　FAX（0880）22-3123

UD FONT by MORISAWA　本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。